

2017年9月13日

# ● 国内助成プログラム紹介



国内助成プログラム 加藤剛

1. 私たちは〇〇という活動をやっているのですが、助成の対象になりますか？

⇒助成プログラムのミカタ

2. 「しらべる助成」と「そだてる助成」、どちらがいいですか？

⇒事例紹介で深堀

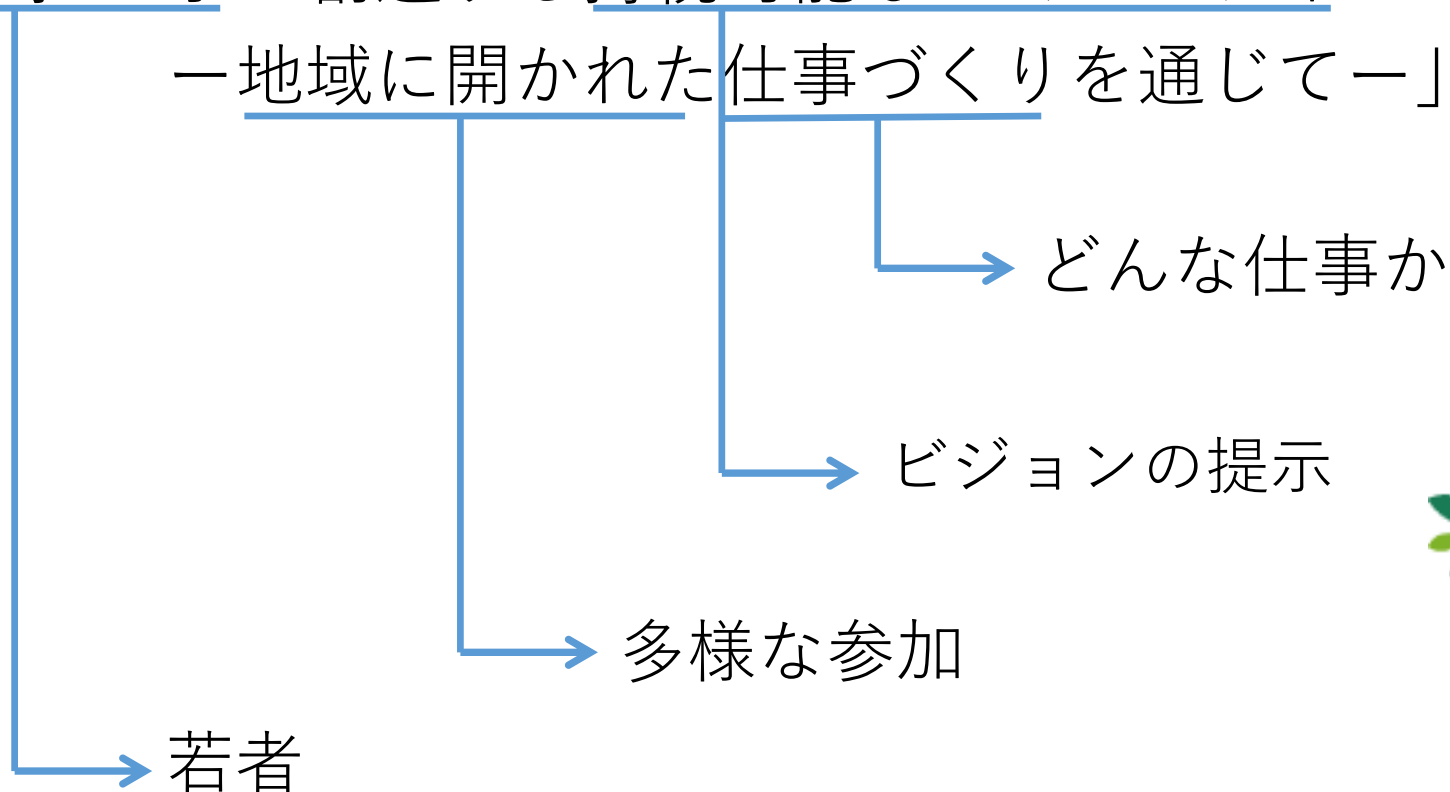
3. どうしたら企画案がもっとよくなりますか？（採択の可能性が高まりますか？）

⇒グループワーク

- 助成金申請書は、助成財団への〇〇〇〇〇である。
- 助成プログラムを知る三種の神器
  1. 募集要項（+記入の手引き）
  2. Q&A
  3. 過去の採択案件
    - 2014年度成果報告書
    - 2016年度助成対象者一覧

テーマ：

「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ  
—地域に開かれた仕事づくりを通じて—」



## そだてる助成

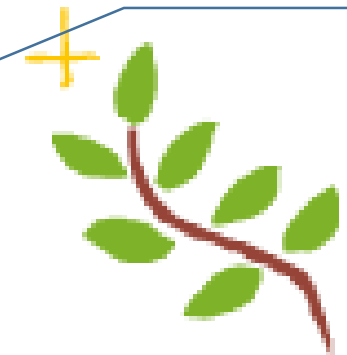
地域課題解決に向けた事業  
と担い手育成への助成

➤ 何をするかではなく地域  
や社会にどのような変化を  
起こしたいかを重視

(ありたい姿からの逆算)

➤ 中間支援の伴走を推奨

- ・ 必須ではない
- ・ 2016年度は、10件中：
  - コミュニティ財団 1
  - NPOセンター 1
  - NPOコンサル・社会起業家支援団体 3
  - ボランティア協会 1
  - テーマ型中間支援 1
  - リノベコンサル&地域の中小企業支援組織 1
  - なし 2



## • 作成のステップ

最終アウトカム



中間・初期アウトカム



アウトプット



活動



インプット

### 1. 最終アウトカムの 検討

- A) 事業がめざす（期待している）社会課題が改善された状態は何だろうか
- B) 誰の、こういった課題の解決 を目指しているのか
- C) 誰に、こういった価値の提供 を目指しているのか

### 2. 中間・初期アウトカムの 検討：最終アウトカムに貢献するために達成したいことは何だろうか

### 3. 具体的な事業内容の 検討

- 1. 中間・初期アウトカムを達成 するための事業内容はどうあるべきか
- 2. どういったサービスを提供する必要があるのか
- 3. そのサービスを提供するため にはどういった資源が必要か

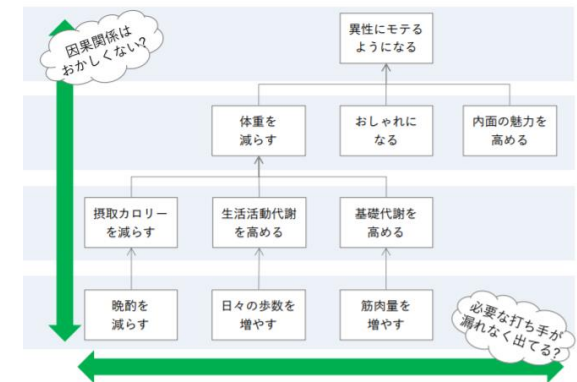
参考：日本財団「ロジックモデル作成ガイド（2017）」

- 課題やニーズが調べられているのが前提。また、既存の研究、エビデンス、先行事例があるか。

- プロジェクトメンバーと参加型で作る

- チェックポイント：

- 縦軸：因果関係はおかしくない？
- 横軸：必要な打ち手は漏れなく出てる？



- ロジックモデルはあくまで仮説。事業を実施しながら必要に応じて改善してゆくもの

参考：日本財団「ロジックモデル作成ガイド（2017）」

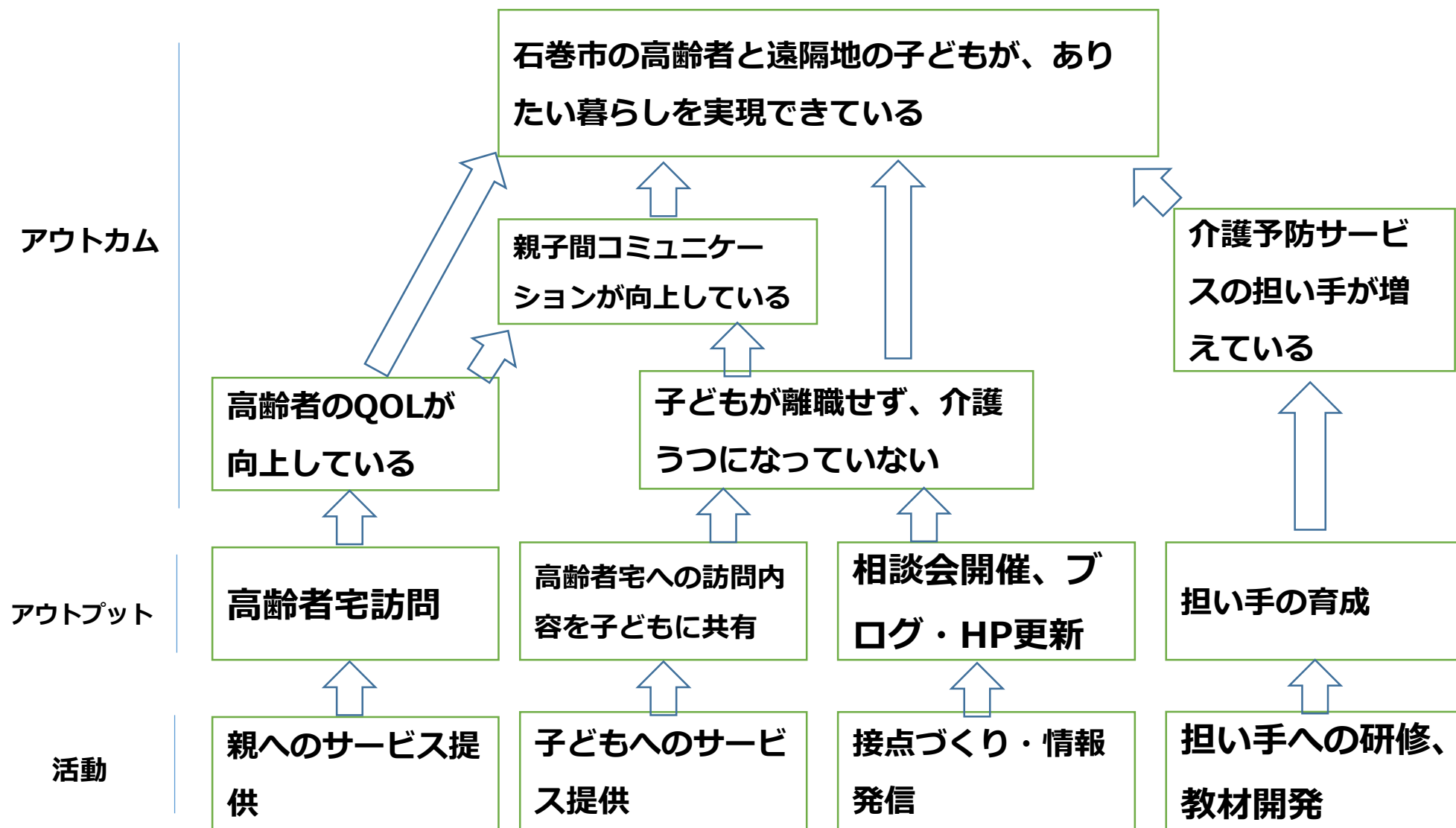
■ 高齢者の健康見守りサービス — 潜在介護士が離れて暮らす親子を支える（一般社団法人りぷらす、石巻市、2017年4月～、2年間）

課題：石巻市における要介護者の急増、震災による居住環境の変化、介護人材の不足、介護制度の改定、介護者（子ども）の離職・うつ病

解決策：潜在介護士（子育て中で就労していない看護師、介護士）による訪問サービスの提供

内容：要介護前の高齢者（主として独居）宅をスタッフ（潜在介護士）が訪問して、介護予防の提供＋遠隔地の子どもへ近況報告、スタッフの開拓・育成





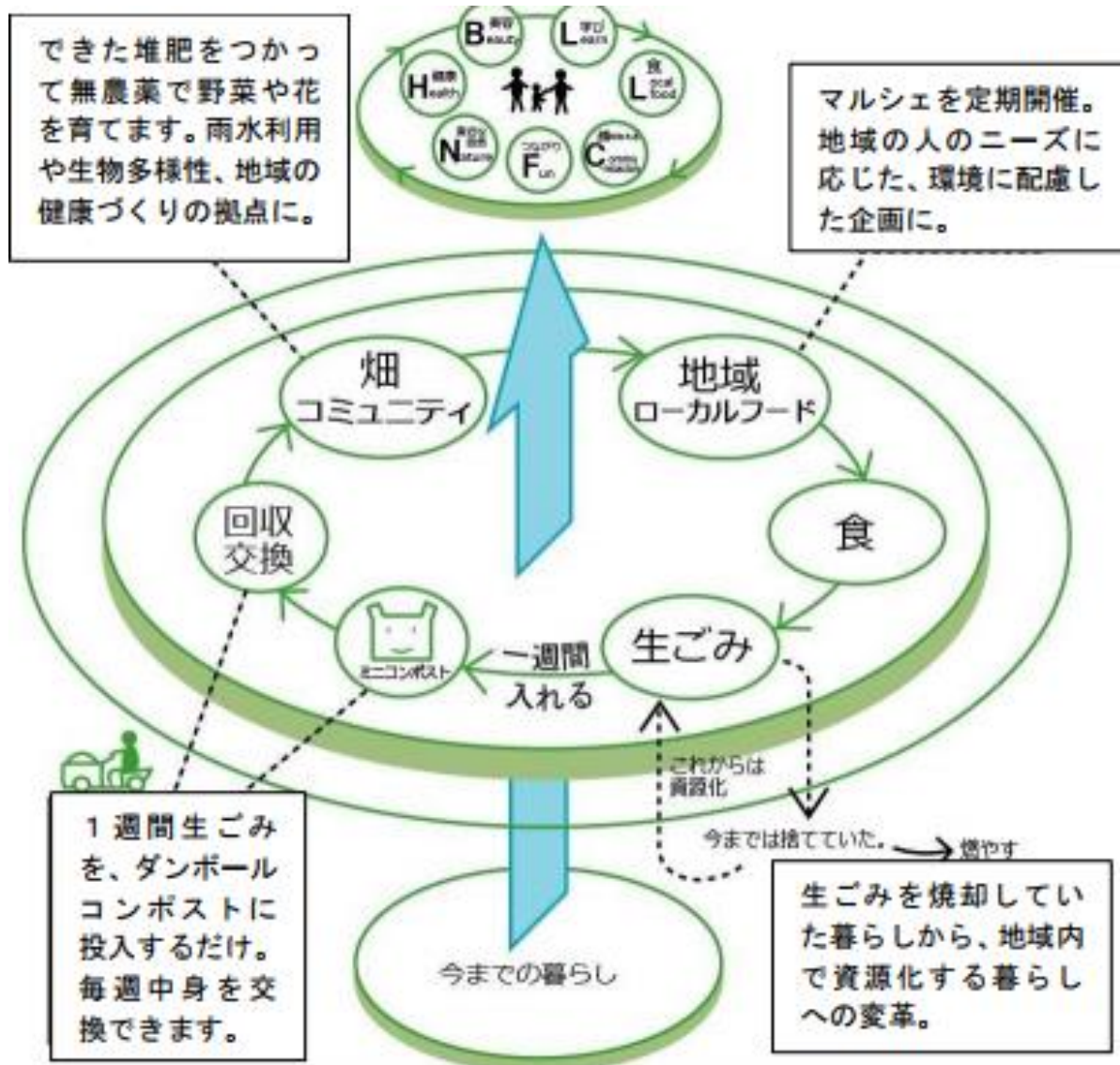
注意：簡略化しています

■ローカルフードサイクリングー生ごみを野菜にかえるサービスの構築（NPO法人循環生活研究所、福岡市、2017年4月～、2年間）

課題：資源循環の重要性は理解しても行動できないヒトゴト層が行動できる仕組みがない

解決策：コミュニティで資源が循環する仕組み（コミュニティコンポスト）とその担い手育成

内容：マンション住民も参加できるコミュニティコンポストのしくみ、コミュニティガーデン（野菜栽培、レストランによる雇用創出）、研修



## しらべる助成

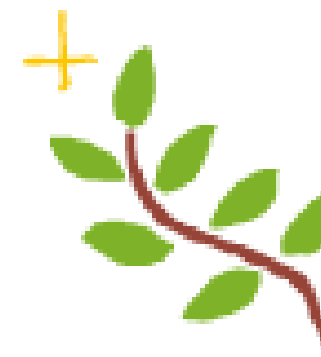
調査、事業戦略の立案への助成

➤ やりたいことではなく、地域に必要なことを。課題の実態、問題構造の把握、関係者の巻き込みが大切

## そだてる助成

地域課題解決に向けた事業と担い手育成への助成

- 何をするかではなく地域や社会にどのような変化を起こしたいかを重視  
(ありたい姿からの逆算)
- 中間支援の伴走を推奨



- しらべる⇒調査⇒社会調査
  - 社会調査とは何か
  - 社会調査の方法
  - どんなときに使うのか、何から始めればよいのか
  - NPOや地域づくりにとっての社会調査の効用

参考：昨年度公募説明会で行った「社会調査入門講座」 ([goo.gl/6gk5HF](https://goo.gl/6gk5HF))

- 調査の役割：
  - 課題を可視化する手段としての調査
  - 人を巻き込む手段としての調査
- よい調査をするためには？
  - 仮説が重要
  - 検証しやすい仮説は具体的！
  - 仮説とは真偽はともかくとして検証するために立てるもの

仮説の種類：

- ① こういった課題やニーズがあるはず（実態把握）
- ② こうやったら解決できるはず（解決手法の検証、事業仮説）

参考：助成対象者向けに行った「調査設計入門研修」 ([goo.gl/iLhsJz](https://goo.gl/iLhsJz))

## ■ 「GH」 + 「アパート」 – 自閉症スペクトラム者の住居の選択肢調査 (NPO法人グループゆう、仙台市 2017年4月～、半年間)

明らかにしたい課題：

自閉症スペクトラム者が一人暮らしをするために適切な住環境と必要な支援

調査手法：

- ① 当事者と家族へのアンケート・ヒアリング→現在の住環境、生活スキル
- ② 制度と現状のGHの実態調査
- ③ 先行事例（一人暮らしをしている当事者）へのヒアリング

■ 福祉現場で企業人が活躍—副業規制緩和による新たな就労機会の創出（NPO法人きょうとNPOセンター、京都、2017年4月～、半年間）

明らかにしたい課題：

「副業禁止及び規制」状況の実態把握、社員の就労ニーズがあるかどうか、福祉事業所のアルバイト受け入れニーズ

調査手法：

- ① 中小企業、福祉事業所、社員へのアンケート
- ② 中小企業、福祉作業所、先行事例（大企業）へのヒアリング

## しらべる助成

調査、事業戦略の立案への助成

➤ やりたいことではなく、地域に必要なことを。課題の実態、問題構造の把握、関係者の巻き込みが大切

## そだてる助成

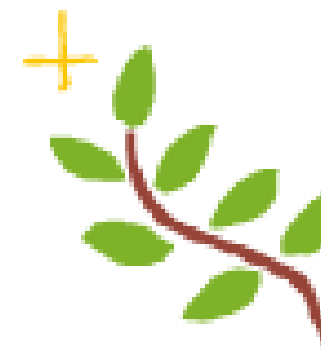
地域課題解決に向けた事業と担い手育成への助成

➤ 何をするかではなく地域や社会にどのような変化を起こしたいかを重視  
(ありたい姿からの逆算)

➤ 中間支援の伴走を推奨

## 発信・提言助成（過去の助成対象限定）

社会変革に向けて助成事業のスケールアウト、制度化





# Q&A

個人的におすすすめな企画立案前の整理方法：

1. 関係者分析：課題を中心において、周りにいる関係者の関係図を書く
2. 問題分析：問題の相関関係をロジックツリーを使って整理
3. 課題の発見、対処、根治、予防の観点で考える
4. ビジネスモデルを考える：ビジネスモデル・キャンバスを使う

<氏名・ご所属>

<地域ビジョン>  
将来ありたい社会・地域・人の姿

10年後位をイメージして簡潔に書いてください。

<プロジェクトで  
解決したい/明らかにしたい課題>

<地域/社会/人に起こしたい変化>

できる限り具体的に書きましょう！

2年間でどんな変化を起こしたいですか？  
課題と同様に具体的に書きましょう！

- ・対象となる人/モノは？  
地域、属性、年齢、種類、生き立ち...
- ・量で把握  
人数、件数、個数、面積...
- ・現状のしくみ、制度、取組みの有無問題
- ・課題の過去、現在、未来

解決策

そだてる助成

しらべる助成

お互いに質問することで課題を深掘りしましょう。違う団体、分野の人からの質問は学びが多いと思います。聞かれてわからなかったことは、深掘りのヒントです。